

文化遺産に対する韓国のまなざし

—植民地期から解放後の陶磁器蒐集をめぐって—

日本人が韓国のやきものを愛玩する文化は古く、茶道具として美を見出された高麗茶碗をはじめ、近代に入って「李朝」として高く評価されるようになった朝鮮時代のやきものなどは有名である。骨董蒐集においても一ジャンルを築くほど、熱烈なファンが多い分野であるが、そのような日本人が韓国を訪れ、現地の美術館や博物館で展示を見た時、美意識の違いに戸惑うケースが少なくないようである。「日本のまなざし」は「韓国のまなざし」と異なっているのである。今回、植民地期から解放後まで韓国の人々がどのように陶磁器を評価し、蒐集してきたのか、その歴史を辿ることで、陶磁器という文化遺産に向けられた韓国のまなざしを考察する機会としたい。

講演者紹介

田代裕一郎（たしろ ゆういちろう）：熊本県出身。東京藝術大学大学院芸術学専攻工芸史分野修士課程修了後、韓国留学。ソウル大学校人文大学考古美術史学科博士課程単位取得。五島美術館学芸員を経て、東京文化財研究所文化財情報資料部研究員。研究員として勤務する傍ら、青山学院大学文学部、愛知県立芸術大学美術学部で非常勤講師を務めている。韓国美術史(陶磁史)、とくに朝鮮時代の陶磁史、近現代における韓国陶磁の鑑賞史を専門とする。6月に共著で『白磁壺頌—朝鮮時代の白磁壺、その美を繙く』（発売：株式会社 目の眼）を刊行予定。

【日時】 2025年6月14日（土）11:00～13:00

【形式】 ハイブリット形式で開催（対面＋オンライン）

参加費無料、ただし6月12日（木）までに**参加登録**が必要です。

下記のウェブフォームまたはメールでの登録をお願いいたします。

【申請方法】 事前参加登録はこちらから→ <https://forms.gle/acVTy3uZjK8S6bYw5>

・対面参加（定員50名）東京大学駒場キャンパス18号館コラボレーションルーム1

※対面参加は、定員になり次第、申し込みを締め切らせていただきます。

・オンライン参加 ※開催日までに、事務局よりZoom URLをお知らせします。

お問い合わせ cks@iags-cks.c.u-tokyo.ac.jp（東京大学韓国学研究センター事務局）

主催 東京大学韓国学研究センター

後援 韓国国外所在文化遺産財団